

けいざい一話



シャープ亀山工場のまわりには、関連メーカーの工場も並び三重県亀山市で、本社ヘリから、中田隆撮影

# 即決「亀山式」

## シャープ誘致三重の早ワザ

シャープが三重県亀山市に工場を建設して3年、液晶テレビの「亀山ブランド」はすっかり定着しました。工場を「巨額の補助金で誘致した」手法は、地域活性化に傾む全国の自治体に広がっています。ただ、補助金制度を作っても、うまくいく自治体ばかりではありません。企業誘致の成功の秘密はどこにあるのでしょうか。(大塚恵)

シャープの亀山工場で、雇用は7000人分が生じ、今も生産拡大に向け、補助金で話題になった。工場と取引先など社内の補助金は約60億円、市おかげで、「55年度の概収は約30億円増えた」。2年度当時のように、突出と、三重県はみる。法人した金額だった。だが、「実は企業は補

### 交渉中に知事伝達「補助金OK」

助金なんか重視してない。自治体のコンサルタント業務を請け負う「地域政策プランニング」の福田泰斗代表は言いつける。「企業が生き残りをはかって世界で競争する時、最初にくら補助金をもらおうが、それはど意味はない」。

### 「100億」「70億」競争高騰

三重と同様、「強み」を生かして成功しているのが神奈川県だ。首都圏に近く人材が豊富なことを生かし、企業との研究施設の誘致に力を注ぎ、自動車、電子部品などの研究施設を誘致。さらに昨年10月、神奈川の80億円を大

その後、議会の反発を受けられたが押し切った。福田代表は「企業の意思決定のスピードに、ついていけない自治体は相手にされない」。三重はワンストップ・サービスが優れている。シャープはそもそも振り返る。土地の調整のために農地調整、環境調査のために環境活動調査、建築申請は建築関係。進出企業は選別、手続のために自治体で、いくつもの部署を転々とさせられる。三重県でも関係する部署は14に分かれているが、シャ

研究施設を設立。7年間で計43億円を投じて将来の企業誘致の布石を打つ。自動車産業の誘致を目指す。対等には、対等に働きかけ国内初の企業誘致の専攻課を新設した。も



#### 視点 知れ「企業感覚」

「誘致の成功、失敗は、担当者によるところも大きい」と話すのは、地域政策プランニングの福田代表。企業がせっかく自治体の誘致を受けてきたのに、何日も経たずパレ-構想だけを待たせて企業を誘致、誘致はすべて持ち帰る、即決の目標が「説明会の開催回数」。

誘致失敗が続く自治体の感覚は、企業側のそれとはどこまでかけ離れている。企業側に腹を割って話し合える相手と認めてもらえなければ、さりざりの交渉に陥り資格さえ得られない。

経済ニュースを「ひと」「組織」「思想」に焦点をあてて読み解く日替わり特集です。ご意見や読みたいテーマをkeizai@asahi.comにお寄せ下さい。